

○自治体 DX

- ・マネジメント手法

取組団体：福島県西会津町

取組内容：広域連携による会津地域の DX 推進

1. 西会津町の概要

人口：5,782 人（令和4年6月1日時点）

職員数（一般行政職）：122 人（令和3年4月1日時点）

総面積：298.18 km²

図表 1 西会津町の位置図



出所：西会津町ホームページ

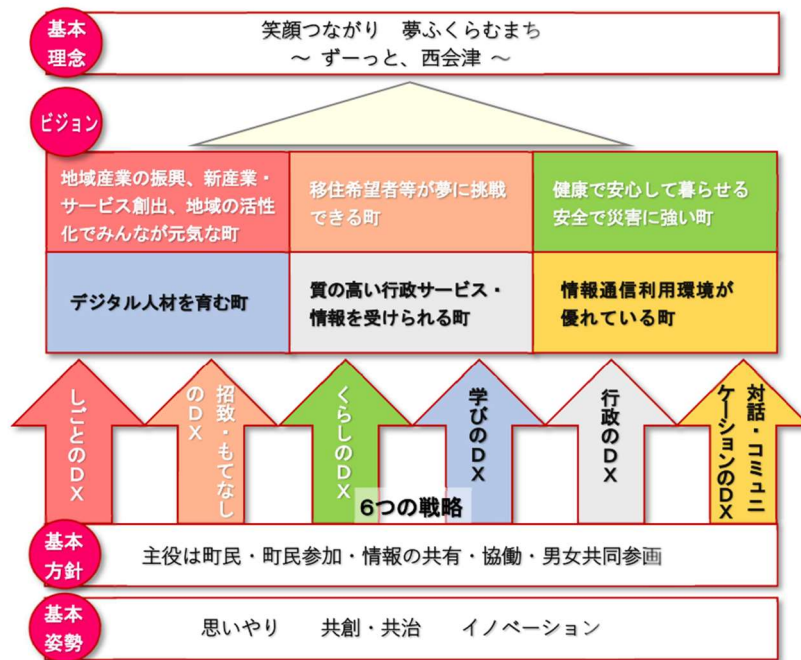
2. 取組の背景・目的

- ・西会津町デジタル戦略

西会津町では、少子高齢化に対応するため、令和3（2021）年3月に「西会津町デジタル戦略」を策定した。日々進化するデジタル技術を戦略的に有効に活用し、地域課題の解決や行政サービスの向上、さらに移住定住の促進等を図るため、あらゆる分野でデジタル変革に取り組み、持続可能なまちづくりを進めている。

同計画に基づき、株式会社 NTT ドコモ（IT を活用した鳥獣被害対策など）、セイコーエプソン株式会社（遠隔地との大画面映像によるコミュニケーション）、一般社団法人 Code for Japan（町民参加型合意形成プラットフォーム）などと相次いで協定を締結して、多様な民間企業との連携によって DX 推進を図っている。

図表 2 西会津町デジタル戦略の体系



出所：西会津町デジタル戦略（令和3年3月）

3. 取組の内容

・広域連携による会津地域の DX 推進

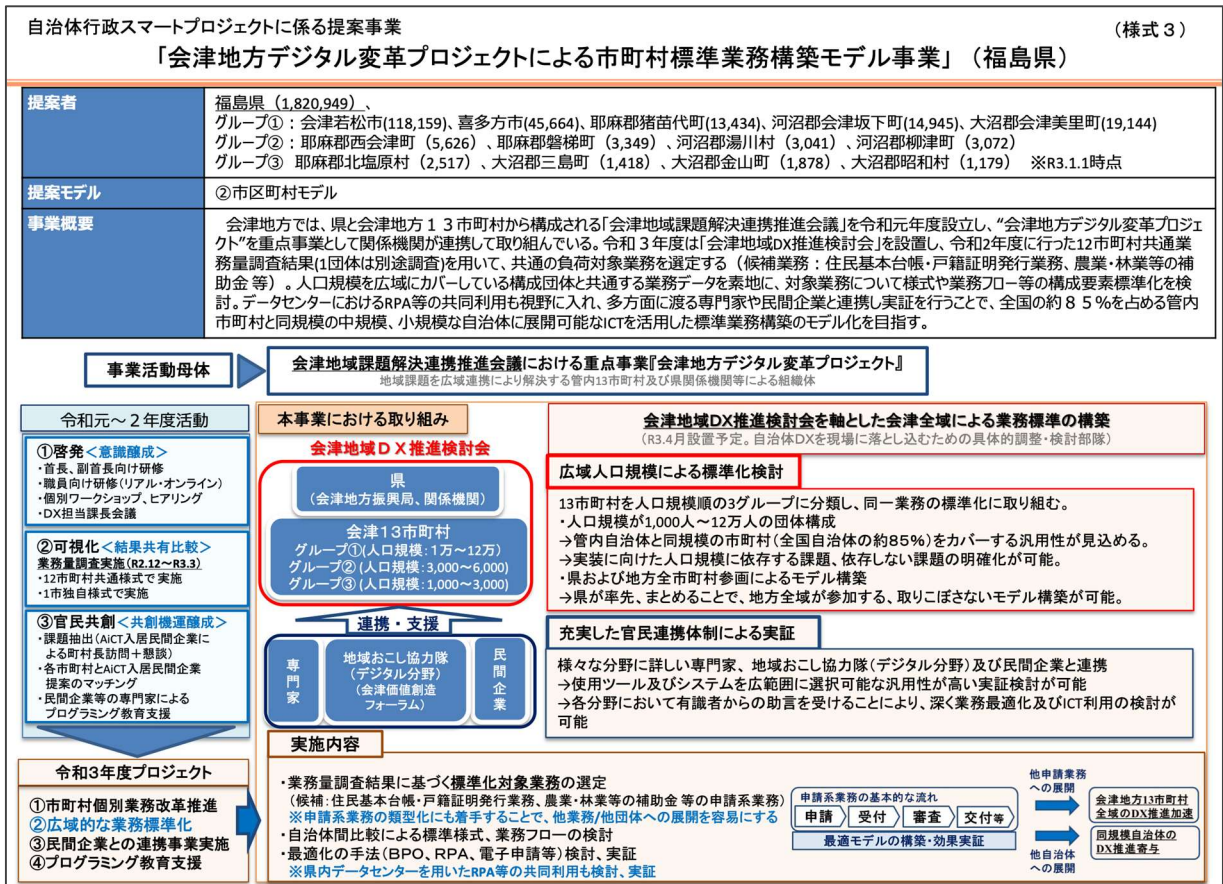
西会津町は、平成9（1997）年2月に福島県内で初めてケーブルテレビ局を開局、平成15（2003）年12月からはケーブルテレビインターネットサービスを開始、平成18（2006）年3月にはテレワークセンターを開設し、インターネットなどのICTを活用した地域ビジネス等の企業支援を推進するなど、ICTを活用したまちづくりで地域をリードしてきた。その経験を生かし、福島県や会津地域の市町村などへ情報提供やノウハウの水平展開を図っている。広域的に多くの自治体が連携することで、より効率的、効果的な自治体DXの推進が可能となることから、広域連携に積極的に取り組んでいる。

西会津町を含めた会津地域では、17市町村が所属する「会津総合開発協議会（昭和45年結成）」を始めとした広域での連携組織がある。その実行部隊としてのコミュニティ「會津価値創造フォーラム」が機能している。広域でのコミュニティ活動をきっかけとして、会津地方振興局が連携して、会津地方デジタル変革プロジェクトによる市町村標準業務構築モデル事業を12市町村に展開した。コニカミノルタ株式会社との実証実験で業務量調査を実施し、量的に見える

化し、各市町村が比較検討できる状態とした。その結果を基に広域的な業務の標準化を進めている。

さらに、会津地方振興局主導で会津地域 13 市町村と福島県会津管内出先機関の自治体職員が、同じ目的をもって、ともに改革を実行していくための基本的な考え方や視点について、具体的にまとめた「人生 100 年時代会津地域自治体広域連携指針～人生 100 年時代。デジタル技術をはじめ、あらゆる手法を活用し、健康で文化的な満足度の高い会津での生活を実現するための会津地域 13 市町村と福島県会津管内出先機関による広域連携指針～」が策定されるに至った。

図表 3 「会津地方デジタル変革プロジェクトによる市町村標準業務構築モデル事業」 取組内容



出所：総務省令和2年度自治体行政スマートプロジェクト（第三次補正予算関係）資料から抜粋

4. 成果・課題

・DX 推進のための人材

「会津価値創造フォーラム」の役割の一つとして、地域で活躍するキーパーソンの支援がある。地域で様々な活動をする人は成果を上げると同時に足を引っ張られることが頻発する。このような状況においても、なお前進できるように広域での相互サポートが重要となる。人口減少時代、一つの市町村で人材を確保しようとしても難しい状況にある。公民連携で行政と関わる複業人材は、複数の市町村でシェアできる状態にすることが大切である。

図表 4 地域の多彩なメンバーによって運用される會津価値創造フォーラム

運営メンバー紹介

地域の多彩なメンバーによって運営されています



代表 佐藤 俊材
会津集合自動車株式会社
代表取締役

未来の会津へ皆さんを誘うツアーコンダクター。それが私たちフォーラムの役割。未来への旅はすべてオーダーメイド。どこへ行くかは皆さん次第。

様々な分野、様々な立場のメンバーが何事にもとらわれなく自由な発想、自由な視点で会津をアツクします。ぜひ一緒に未来の会津へ出発しましょう！



副代表 佐藤 浩
会津若松市役所企画政策部副部長
兼庁舎整備室長

「会津の人々と意識を共有し、未来と一緒に築いていきたい。皆さんと語り合う場をつくり、会津の価値を知り価値を創り、Aizu as Oneのもと新たな価値を世界に発信したい」2012年にゼビオHD取締役の熱い思いのもと創設された會津価値創造フォーラム。その遺伝子を繋いでいく役割を持って運営を支えています。



副代表 佐藤 淳一
磐梯町町長

本職はリゾート開発からリゾート運営。特技はレストランでのディレクション。50を超えてで磐梯町議員に転身。議員1期目でいきなり首長へ挑戦し現在磐梯町長。「町民全員を幸せにする！」という大きなミッションに日夜奮闘中。「Aizu One」=会津渾身の復活！を自指し、令和の美羽越列藩同盟「會津価値創造フォーラム」で仲間と共にそれを実現しましょう。



アドバイザー 澤 浩幸
一般社団法人Community Future
Design代表理事

フォーラムは、ポッドキャストでフラットでオープンな場です。会津の中・会津の外。そして産官学の複数の組織に関わる複眼的な視点を持ちながら、ある時はリストとして、ある時は二重奏で、そしてまたある時は、罵詈雑言の相手として、「インクルージョン＆ダイバーシティ」な場づくりの「つなぐ」をサポートさせていただきます。



アドバイザー 守岡 文浩
福島県会津地方振興局長

暫しのマラソン大会、七日堂裸祭り、大塚引まなこ参加すればまるごと、この素晴らしい地域をもっともっと良くしたいとの思いが、昨年「会津地域課題解決連携推進会議」を立ち上げ、具体的なプロジェクトを進めております。

皆さんと想い、目標は同じであり、様々な部分で連携しながら頑張っていますので、よろしくお願いたします。



アドバイザー 金子 市夫
福島県南会津振興局長

東日本大震災、原発事故、昨年の台風19号等連続被害。そして新型コロナウイルスなど、福島県は想定外の事態に直面し、そして立ち向かっています。そして超高齢化と人口減少、地域創生。

「会津」は今どこへ向かおうとしているのか？どこへ向かえばいいのか？私的な視点、公的な視点の両方で皆さんとともに考えていきたいと思っております。



事務局 矢野 睦 (株式会社会津の暮らし研究 代表取締役)

玉水 まどか (磐梯町議会議員)

フォーラムの活動が円滑に行われるよう、講演会のサポート、会議のセッティング、会計業務などを行います。当フォーラムは事務局含めメンバー全員がプレイヤーです。それぞれの活動を持ち寄り、会津地域の取り組みを日々学びあっています。これからも会津の価値創造のために精一杯努めますので、よろしくお願いたします。

出所：會津価値創造フォーラムホームページ

一方で、外部人材に頼ってばかりではDX、さらには地域課題の解決は進まない。自治体職員が自ら考えて行動していくことが前提であり、今回実施した業務量調査では、結果を近隣市町村と比較したことで職員一人一人が自らの業務について考えるきっかけとなっている。

本質的な地域課題の解決には住民の声をよく聴くことが必要である。DXによる業務効率化によって職員が住民と交流する機会を増やすことで、より多くの声を聴くことができるようになる。また、西会津町では、自治体職員がデジタル教室やデジタルよろず相談室などで地域に入っている。デジタル技術に関する疑問点や困りごとなど、住民から直接聴きながら対応している。

デジタルだからといってICTツールの導入などによる短期的な効果を期待するのではなく、長期的に地域課題に対応していくことが重要である。

【参考】

西会津町デジタル戦略（令和3年3月）

<https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/uploaded/attachment/6056.pdf>

會津価値創造フォーラムホームページ

<https://www.aizu-one.com/#home>

福島県ホームページ（『人生100年時代 会津地域自治体広域連携指針』令和4年1月21日策定）

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01240a/renkeishishin.html>